

「外国語学習のめやす」が 中国語教育にもたらしもの

山崎直樹（関西大学）

日本中国語学会東海支部例会

（愛知大学車道校舎, 2015/11/14）

概要

1. 外国語教育の目的
2. 「社会で」「コミュニティで」の意味
3. Grammar to Communicationという方向性の危うさ
4. 無制限な語用論的転移の危うさ～正負の見極め
5. その他：統語論と語用論への問題提起

外国語教育の目的

- ・ コミュニケーション能力の育成

外国語教育観＋ コミュニケーション観 (👉2)

- 社会で直面する**課題**を解決するため (CEFR)
- 「**インタラクション**教育でなければならない」 (ネウ
ストプニー)
- 「人が社会で生きていくために必要な**あらゆる有益な
学習要素**を外国語教育の中で実現しよう／コミュニ
ケーションの究極の目的は「**新たな人的ネットワーク**
を構築すること」 (『外国語学習のめやす』)

注意すべきポイント

- 「コミュニケーション能力の育成」と「言語構造に関する知識の積み上げ」は**対立するものではない**
- **G to C** (from **G**rammar & **G**oi to **C**ommunication) の危うさ

コミュニケーション能力とは (👉4)

- **文法**的能力: 文法的に正しい文を用いる能力。
- **談話**能力: 単なる文の羅列ではない、意味のある談話や文脈を理解し、作り出す能力。
- **社会**言語能力: 社会的な文脈を判断して、状況に応じて適切な表現を行う能力。
- **方略**的言語能力: コミュニケーションの目的達成のための対処能力。

言語活動のモデル (👉5)

- 構造的活動…文の構造を理解させるための活動。
- 擬似コミュニケーション活動…文の機能を使う活動。
- 機能的コミュニケーション活動…情報のやり取りをする活動
- 社会的インタラクション活動…「**社会的に容認される発話**」を生成する活動。「役割」とか「場面」とか「目的」などの条件。

コミュニケーションを社会的な行動の 総体の中で捉える (👉6)

1. 言語行動

2. コミュニケーション行動 (言語行動 + 社会言語行動)

社会言語行動：「文法外」のコミュニケーション

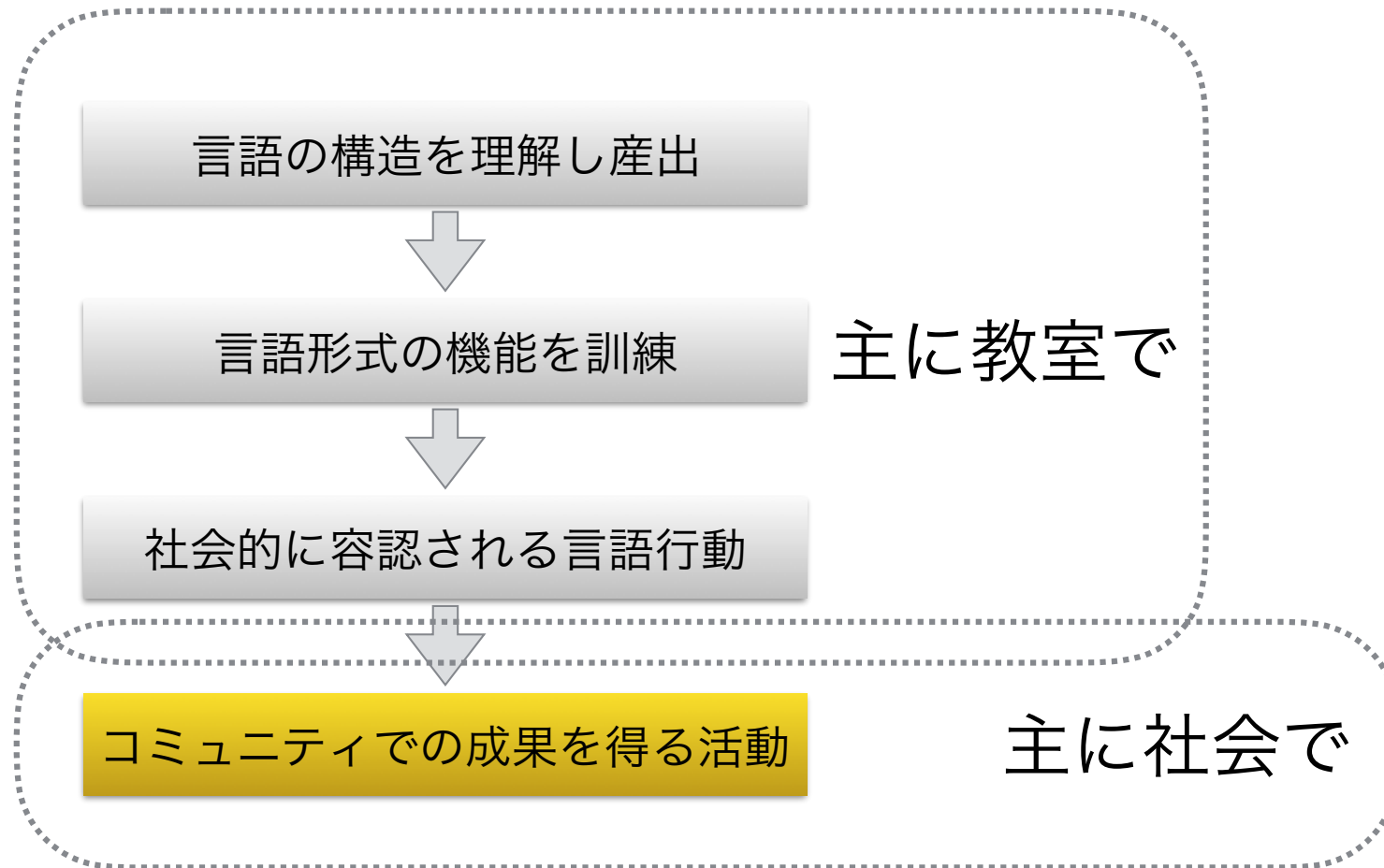
3. インタラクション (言語行動 + 社会言語行動 + **社会文化行動**)

社会文化行動：日常生活の行動、経済、政治、思想行動

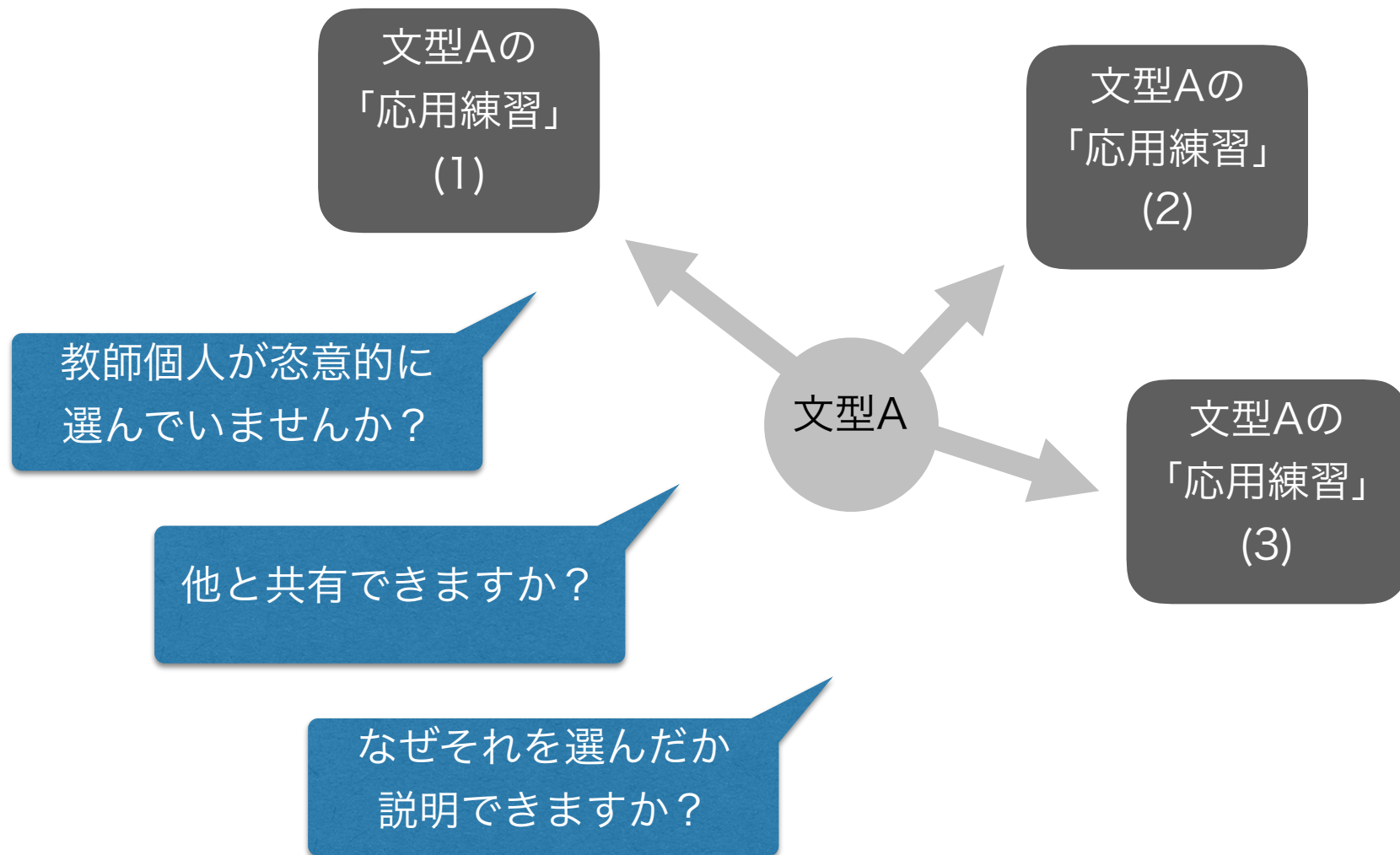
『めやす』に基づく アプローチ (👉7)

- ・ 言語・文化・グローバル社会の3領域における「わかる・できる・**つながる**」の3種類の能力+3連繋
(既習内容・経験・他教科の内容との連繋、教室外の人・モノ・情報との連繋、学習者の関心・意欲・態度・学習スタイルとの連繋)

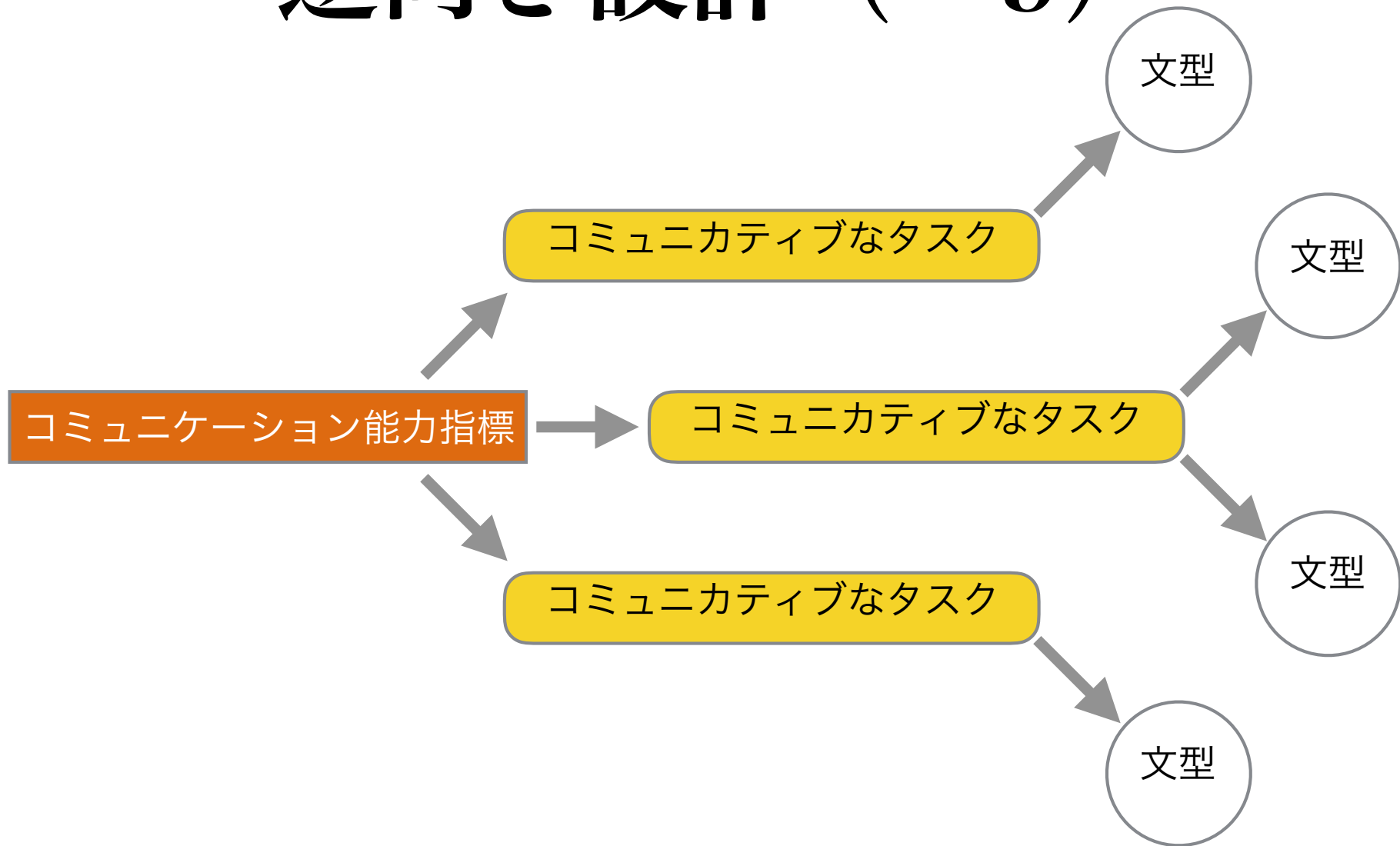
『めやす』モデル



「もうやっているよ」について (👉8)



われわれの手順 逆向き設計 (👉9)



拡散と恣意の排除

「話題領域」

- 自分と身近な人々／学校生活／日常生活／食／衣とファッション／住まい／からだと健康／趣味と遊び／買い物／交通と旅行／人とのつきあい／行事／地域社会と世界／自然環境／ことば

拡散と恣意の排除

「コミュニケーション能力指標」

- 必要なもの（メニュー、箸、皿、紙ナプキンなど）を、要求することができる。【食、レベル1】

指標をコミュニケーション的なタスクに

1-c. 必要なもの（メニュー、箸、皿、紙ナプキンなど）を、要求することができる。

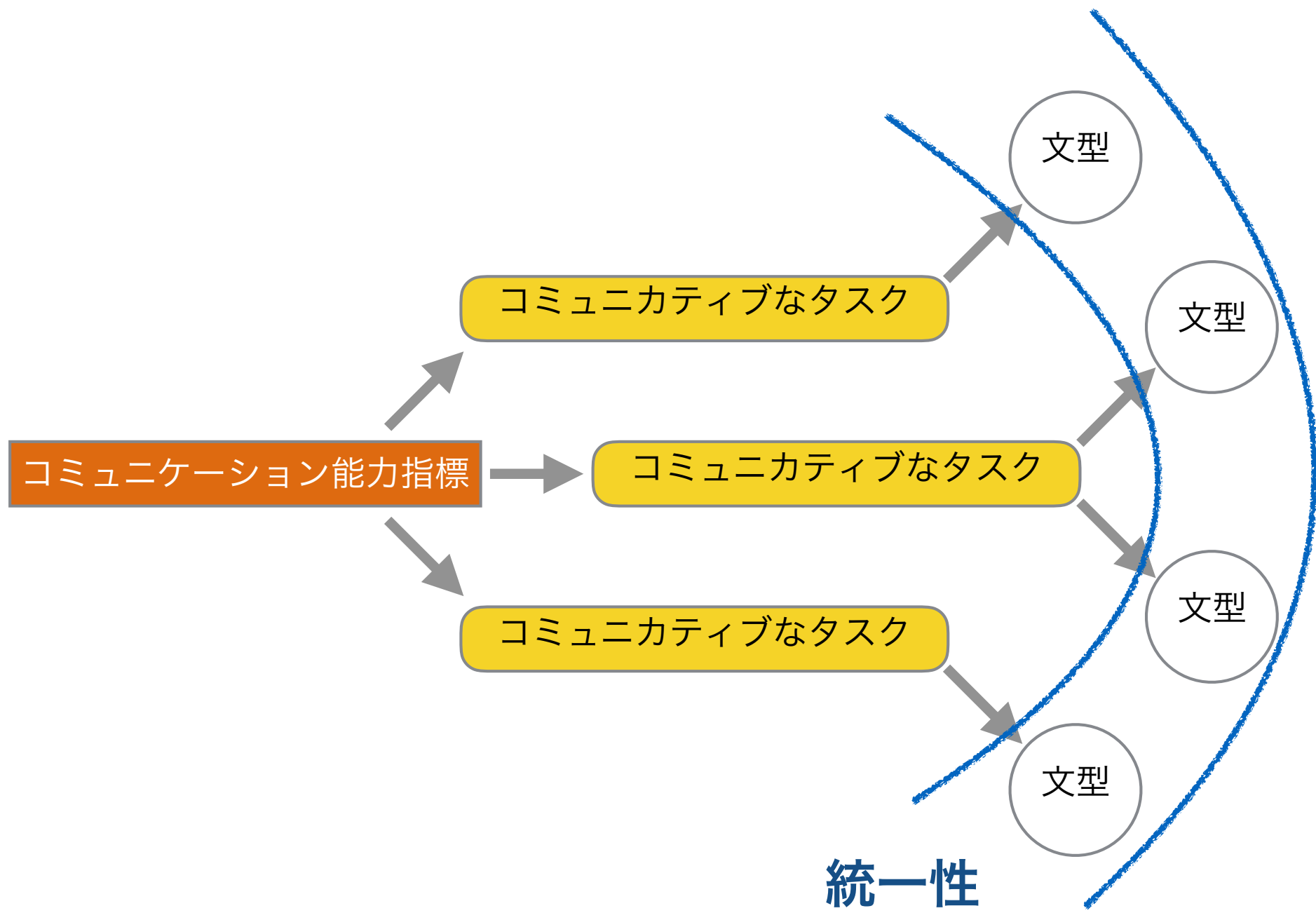
- メニューが見たいことを伝える。〈伝える〉
- テーブルの上にあるべき物（紙ナプキン、調味料など）が欲しいことを伝える。〈伝える〉
- お箸や皿などの食器が欲しいことを伝える。〈伝える〉

拡散と恣意の排除

「一般言語能力指標」

レベル1

- ・ 自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力を得られれば 簡単なやりとりができる。
- ・ 自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で表現することができる。
- ・ よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解することができる。



無制限な語用論的転移 の危うさ (👉 10)

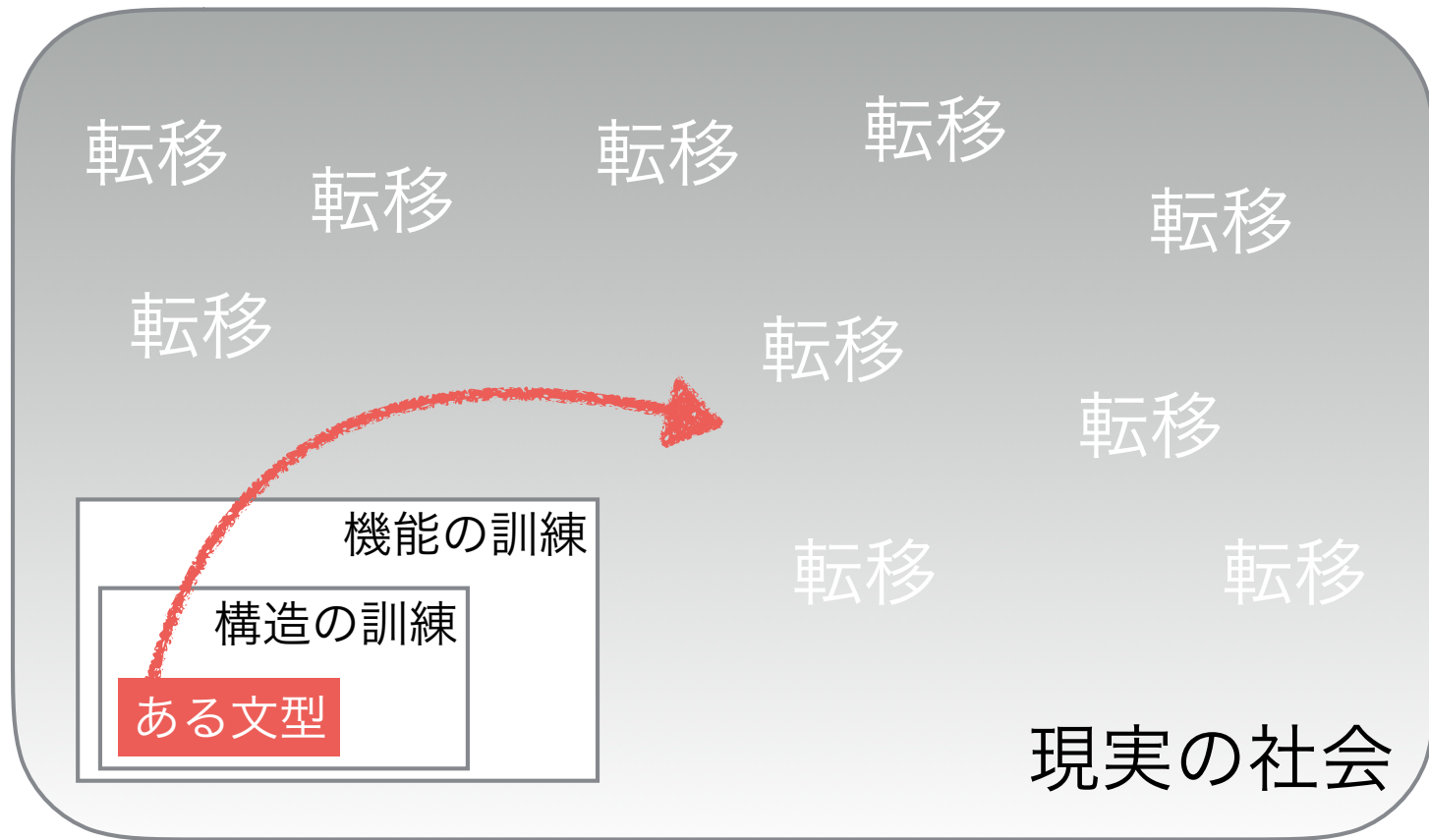
語用言語学的転移

- ・ 「L1の特定の言語的素材に割り当てられた発語内行為やポライトネスの価値が、学習者のL2での形式と機能のマッピングの認識や産出に影響する過程」

社会語用論的転移

- ・ 「学習者のL2における言語行動の解釈や遂行の根底にある社会的認識が、それと主観的に対応するL1文脈の評価によって影響を受けたとき」に起こる転移

「野放し」の転移



転移なし

いつどこで誰と何のために
コミュニケーションを
するかを考える

その社会で容認される
表現の選択

言語化

レストランで注文したいので店員を呼ぶ

「店で店員を呼ぶとき」は何というか

すみませ〜ん

第一言語

服务员！

第二言語

転移

いつどこで誰と何のために
コミュニケーションを
するかを考える

その社会で容認される
表現の選択

言語化

レストランで注文したいので店員を呼ぶ



「店で店員を呼ぶとき」は何というか



すみませ〜ん


第一言語



对不起！

第二言語

ちょっと考えてみてください

( 12)

- 日本語での慣習に従って、「初級」で学ぶ表現だけを使い、レストランの場面で、必要なメッセージを伝えようとしたらどうなるでしょう？


転移が必ずしも悪いわけ ではないが……

- 正の転移
- 負の転移 …… 訂正される機会が少ない学習者のためには、これをどうブロックするかを考えねばならない

教師が教えることと 把握しておくべきこと

- ・ 教えること……道の真ん中を歩く方法
- ・ 把握しておくべきこと……どこを歩いたら溝に落ちるか

統語論と語用論への問題提起

( 12)

- ・ 現実の社会でインタラクティブなコミュニケーションを行うための「文型」という観点から見えてくるもの

単なる程度の相違か フレームの相違か

- ・ 请～ ／ 麻烦～
- ・ 「店員と客」のフレームの中で、店員が当然行う行為を客が依頼するのにふさわしい要素

「～が欲しいんですけど」 に対応する表現は

- 我要～／我买～／你要～／你买～で始まる表現の直
截さ

日本語の語用論的慣習 との対照

- お店に入ってからすぐ「××がほしい」とは、ふつう言わない
- 「××がほしい **んです** **けど**」

断言を避ければよいか

- 「店員と客」のフレームの中で、好吗？ 可以吗？ の付加は適切か？

不満表明になる／ならない

- ・ 我想看看菜单（，可以吗？）
- ・ メニューがあるのは当然かどうかで異なる判断
- ・ 「微笑」を伴うか否か

Content wordの選択と 待遇度

- “～把菜单**拿**来” の待遇度
- “**给**我一块豆腐” を避ける理由

直截的表現は常に不適か

- “给我～”が許容される「物」と「場合」
- 「店員と客」のフレーム

その他の問題点 (👉 13)

- コミュニケーションの3つのモード (解釈的／提示的／対人的)
- 我々のタスク……「理解する」「伝える」「やりとり」
- 文法的に対応する「応答」とインタラクティブなコミュニケーションとしての「応答」

応答でしか観察できない 言語現象の例

- 省略の程度と待遇度
- 非共鳴的応答と省略可能性の高低

老师:你们是从哪儿来的?

学生1:西安。

学生2:从贵州来的。

学生3:我是从成都来的。

(リレーの選手の名簿を一瞥した教師が)

老师: 李明跑得快吗?

学生1: 快。

学生2: 嗯，快，老师。

学生3: 嗯，他跑得快，老师。

老师: 你今天吃早饭了吗?

学生1: 嗯, 吃了。

学生2: 嗯, 我吃了。

(学生同士の会話と比較すると……)

非共鳴的応答と 省略可能性の高低

Q: 你今天吃早饭了吗?

A1: 一般不吃。

A2: 嗯——，我一般不吃。

A3: 嗯——，一般不吃早饭。

A4: 嗯——，我一般不吃早饭。

A4: 嗯——，老师，我一般不吃早饭。

『めやす』的アプローチによる 逆向き設計がもたらすもの

- 例(1): どの場合のどのような語用論的転移が問題となりうるかについての研究（跨文化語用学）、社会的に容認されるvs. 基本的な構造の妥協点の模索
- 例(2): 対話の統語論・語用論（省略、フレームの訂正、フェイスマネージメント……）の形式化